

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 14-11号

2014年5月27日(火)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

http://www.medical-post.net/fukushi/

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

「検討するなら、窓口無料化を！」の声を更に大きく 信毎意見広告掲載日6/19朝刊(県会開会日)決定 第二社会面(30面) 半面ページ

賛同募金の応募状況 (5/26)現在



122団体・個人から 327,000円(目標比16.4%)

要望署名賛同団体から 5団体(公表4、非公表1)

公表団体:反貧困ネットワーク信州、上高田保育園(長野市)、
企業組合労協ながの、みなみ信州農協労働組合(飯田市)

非公表団体:自治体職員労働組合

県生協連加盟の単位生協 1(非公表)

ホームページからと思われる個人 1名

県推協関係 11個人・団体、自由法曹団関係 17個人・団体

新婦人関係 23個人・団体、県教組関係 25個人・団体

高齢協関係 14個人・団体、共産党関係(議員含) 19個人・団体

北部地域の三村議会(栄村、木島平村、野沢温泉村) 県知事宛の「窓口無料化要望」意見書採択(3月議会)

先日の県知事懇談の際、県知事が突然持ち出した高校卒業まで助成している町村(全県の46.7%の比重)の問題。これらの町村は県の助成水準(通院就学前、入院小学3年)以上の部分は全額町村の独自財源で実施している事業です。あたかも県も助成しているかのような発言は県民を騙すようなものです。

一昨年(2012年)原発被災県の福島県は、県の制度としてそれまで就学前であった助成水準を一挙に高校卒業まで(通院・入院)拡大しました。福島県では、就学前の一部(社保)は償還払いですが(それもいくつかの市町村は窓口無料)県の制度として小学4年~高校卒業まで、所得制限なし、自己負担金なしの完全窓口無料です。県下59の全市町村は、県の制度に合わせて高校卒業まで窓口無料制度を採用しました。こうして県の助成水準の充実は、確実に全市町村に普及していくキッカケを作っていきます。

長野県でも、県の助成方法・範囲の拡大は、県下すべての市町村、県民の切実な願いです。現に、北部地域の三つの村議会では、先日の3月議会で県知事宛に「窓口無料化」を求める意見書が採択されています。右の文書は全会一致で採択された野沢温泉村議会の意見書の写しです。

